

## 令和元年度 【 学園研究費助成金&lt; B &gt; 】 研究成果報告書

学部名 文化情報学部

フリガナ コメダ キミノリ  
氏名 米田 公則

研究期間 令和元年度

研究課題名 タイ国におけるコミュニティ・ベース・ツーリズムと ICT 利活用に関する社会学  
的研究

## 研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	米田 公則	文化情報学部	教授
研究分担者			
研究分担者			

## 1. 本研究開始の背景や目的等 (200 字～300 字程度で記述)

近年我が国は「観光立国」を標榜し、積極的に外国人観光客を受け入れ、ICT を利活用し、地域の活性化につなげようとしている。しかしながら我が国の観光政策は、マス・ツーリズムから脱却できず、地域コミュニティを基盤とし、管理運営する観光という視点は希薄な状況である。また、ICT も単なる地域情報発信の手段としてのみ捉えられている。そのために今後、観光者が増加し、地域活性化が成功した地域において、環境破壊・地域住民との軋轢など様々な問題が発生することが予測される。本研究の目的は、「観光先進国」ともいえるタイ国のオルタナティブ・ツーリズムの一つであるコミュニティ・ベース・ツーリズムに注目し、そこでのコミュニティをベースにした観光の実態と ICT の影響が地域コミュニティや地域観光にどのような影響を与えているかを明らかにすることを目的としている

## 2. 研究の推進方策 (300 字程度で記述)

タイ国・CBT の成功事例であるメイカンボン村の観光調査研究を地元タイの Payap 大学研究所の協力を得て実施することとした。メイカンボン村は観光者の急増により、これまでのコミュニティ管理のホームステイのみから、個人運営のホームステイが村落内で許可され、開始された。プライベートなホームステイ事業が展開可能になったのは ICT の普及が影響をしていると考えられた。そこでメイカンボン村の ICT の普及の状況とホームステイ事業での活用の実態、その影響を明らかにするために、従来型のホームステイ事業を展開している住民と独自にホームステイ事業を展開しているグループ住民に対してアンケートを実施し、比較研究を行い、これらふたつのグループでの ICT 活用の差異や経営実態の違いを解明することとした。また、地域リーダーに対してインタビュー調査を実施し、ホームステイ事業が許可された経緯やプライベートなホームステイ事業とコミュニティとの関係を解明することとした。

### 3. 研究成果の概要 (600 字～800 字程度で記述)

メイカンボン村は、CBT観光の成功により住民生活が向上し、その利益配分も一定程度住民に還元される仕組みをとっている。これにより地域住民の福祉、教育支援などが可能になった。しかしながら観光者の増加に伴い、利益を追求したい地域住民の意向と従来からのコミュニティをベースとした平等性を重視したホームステイ事業の仕組みとが矛盾をきたすようになった。観光者が急増した2015年からこれまで禁止されていたプライベートなホームステイ事業が住民会議により解禁されることとなった。リーダー層へのインタビュー調査によるとプライベート・ホームステイ事業者も利益の一部をコミュニティに還元する仕組みを維持され(CBTグループと同額)、同時に自由な経済活動を展開可能にする内容であった。このような状況変化の実態をより詳細に解明するために、Payap 大学 CBT 研究所の協力を得ながら、ホームステイ事業者を対象としたアンケート調査を実施することとした。

調査結果の分析により従来からの CBT ホームステイ事業グループのメンバー(全員)とプライベートなホームステイ事業を展開している地域住民(約半数)とに様々な差があることが明らかになった。第一は年齢層と投資額の違いである。プライベートなホームステイ事業を展開している地位住民は年齢が若く、同時に積極的に投資を行い、ホームステイのための部屋数も平均すると CBT グループの 1.5 倍程度の部屋数で事業を展開していることが分かった。また、ICT の利活用においても大きな差があることが分かった。CBT ホームステイ事業の電話による一元的受け入れが維持されているのに対して、プライベート・グループは facebook など様々な SNS を活用し、積極的にホームステイ事業を展開していることが明らかになった。これらの研究成果の一部は本学『椋山女学園大学研究論集』および椋山女学園大学『文化情報学部紀要』に論文執筆した。(2020 年 3 月刊行予定) また、本年度「第 92 回日本社会学会大会」において学会発表を実施し、研究成果を公表した。

### 4. キーワード (本研究のキーワードを 1 項目以上 8 項目以内で記載)

①コミュニティ・ベース・ツーリズム	②コミュニティ	③ICT	④地域観光
⑤	⑥	⑦	⑧

**5. 研究成果及び今後の展望** (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

<論文・単著> (いずれも 2020 年 3 月刊行予定)

米田公則 「地域観光の成功と変質」『椋山女学園大学研究論集』第 51 号社会科学篇 2019

米田公則 「「観光のまなざし」論をめぐって」椋山女学園大学『文化情報学部紀要』第 19 巻

<学会発表・単独>

米田公則 「地域観光の可能性と課題・タイ国メイカンボン村のコミュニティ・ベース・ツーリズム研究」 第 92 回日本社会学会大会 2019 年 10 月 5 日・(東京女子大学)